



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院

2021.11.第45号

〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389

e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

人の考えは一律ではなく、箱プランコの事故の時も撤去するという意見の他に、「事故が起きたからといってただ単にそれを無くす」ということで本当にいいのかわからないという意見も出ていました。事故を防ぐために事故の可能性のあるものを無くしてしまうというのはある意味では当たり前の考えかもしれませんが、しかしそれでは子どもへの危険予知能力や危機回避能力が養えないという考えもあります。

今年、ある保育園で2歳の幼児が遊具の柵に頭が挟まって意識不明の重体となる痛ましい事故が起きました。遊具に関しては今は設置基準が厳しくなっており、当然その保育園でも基準を満たした上で設置してあるものだと思います。それでも事故は起きてしまいました。過去にも、箱プランコで事故が起きて、全国の公園等から一斉に撤去されたということがありました。このような事故から我々は何を学び、何を考えなくてはならないのでしょうか。

以前「現代の子どもは、転んだ時に手を出さず、転んだから落ちてしまう」という話を聞いたことがあります。もちろん個人差はあるでしょうし、運動神経の問題もあるかもしれませんが、それくらい現代の子どもは危機回避能力が育っていないと言われていると思います。当然怪我はしないほうがいいのですが、それを恐れるあまり何もかも無くしてしまうと、いつまで経っても子どもに必要な能力は養えません。子どもの為と言いつつも、逆に子どもを成長を阻害している可能性もあります。

弊院でも昔、朝食時に食パンをトースターでトーストしようとした子どもが火傷したことがあり、危険防止としてトースターを使えないようにしようとしたことがありました。しかしそれではかえって子どものためにならない、それよりも正しい使い方を教えることが大切なのではないかと意見して、トースターの使用を続けさせたことがありました。

「転ばぬ先の杖」ということわざがあります。「失敗しないように、万が一に備えてあらかじめ十分な準備をしておくこと」という意味です。これは自分自身の心の準備として考えるのは良いと思いますが、これを子どもにも当て嵌めてしまつのは果たして良いことなのでしょうか。最近では親や大人が子どもに行く先々に先回りして、子どもが転ばないように障害物を片付けてしまうというようなことが多いような気がします。所謂「過干渉」です。そうすると子どもは安全に歩けるかもしれませんが、当然のことながら親や大人がいつまでも助けてあげることができません。人生は平坦な道ばかりではないですし、寧ろ困難な道ばかりが多いでしょう。そんな人生には、厳しいようですが、時には転ぶ経験も必要だと思います。我々大人がやるべきことは決して先回りして障害物を片付けることではなく、子どもが転んだ時にそつと

そつと差し出される手の温もり 施設長 武重俊之



コロナに負けず、頑張っています！

猛威を振るっていた新型コロナウイルスですが、10月以降、全国的に落ち着いてきました。このまま終息に向かってくれればいいのですが、果たしてどうなるのでしょうか？

昨年から続くコロナ禍でも、育児院の子ども達は本当によく頑張っています。時期によっては外出を規制したこともありますが、「ネー」という声は出るものの皆きちんと守って自粛してくれました。手洗いうがい検温等、予防対策にもしっかりと取り組んでくれたおかげで、今のところ感染者は0です。もちろん、いつ誰が感染してもおかしくないウイルスだけに油断は禁物です。今後感染者が出ることも考えられますが、現状、本当によく頑張ってくれていると思います。



勤んでいる(?)子、スポ少が中止と再開を繰り返す中でも頑張っている子。本当に頭が下がります。また、子ども達だけではなく保護者の方にも御理解をいただいています。感染状況によっては面会や外出、帰省を控えていただくこともありますが、皆さんしっかりと協力してくださり、大変助かっています。育児院としても可能な限り希望に応えたいのですが、意に沿えないことも多く申し訳なく思っています。

しかし、誰もが経験したことのない事態です。皆で助け合い、理解し合いながらこの局面を乗り切っていきたいと思っておりますので、今後とも、関係各位の御協力を謹んでお願い申し上げます。

歩々清風

新型コロナウイルスが少し落ち着いてきましたが、これからの季節はインフルエンザに注意が必要です。昨年は感染症対策のお陰であまり流行することはなかったのですが、その分免疫力が落ちていて、今冬は要注意だそつです。

以前小誌第38号で御紹介した青山学院大学に進学したH君が、なんと九州大学大学院総合理工学府に合格し、来春から大学院生として勉強を続けることになりました！連絡をもらった時にはとにかくびっくりして、思わず頬を掴ったくらいです。様々な人達の有形無形の御支援を頂きながら、彼が一生懸命、そして楽しく努力した結果です。コロナ禍で暗いニュースが多い中、本当に嬉しい知らせでした。

彼に負けないよう、我々もしっかりと前を向いて歩かなくてはなりません。怠けず根を詰めず、「いい加減」に頑張りたいと思います！ (丁)

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービを実施しています。

トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病氣、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



手を差し出してあげることでないでしようか。子どもが転んだ時にすぐに手を差し出すためには、常に子どもを見守っていないければなりません。所謂ネグレクト状態ではできないことです。子どもは、普段は親や大人に見守ってもらっていることに気付いていないかもしれませんが、いざ自分が転んだ時にさっと手を差し出してもらうと、「ああ、いつも見てくれていたんだ」という嬉しさや安心感を得ることができません。そうすると、転ぶこと（失敗すること）を恐れずに、安心してさらに新しいことに挑戦していく勇氣を持つことができるのです。転んだ時にそっと差し出される手の温もりを感じることに。子どもには必要な経験だと思います。

もちろん、冒頭のような痛ましい事故が起きないように、我々養育者は細心の注意を払わなくてはなりません。失敗の経験をさせるために何でもさせればよいということではないのは当然のことです。特に児童養護施設では子どもを「お預かりしている」ということを忘れてはなりません。子どもの安全のためにできることはしっかりとやらなくてはならないと思います。その養育とは何かも大人が手をかけてやれば良いというものではないことを理解する必要があります。はいでしようか。何に手をかけるべきか、何を見守るべきかを見極めることが何より大切なことです。その見極めを誤ってしまつと、子どもの自立心を阻害してしまい、最悪の場合、尊い命を失ってしまうことにもなりかねません。そのことに大人が気付かなくてはなりません。

優しい言い方もかもしれませんが、子どもが育つかどうかはその子どもの自覚と努力によるしかたないのです。子どもがお腹がすいたからといって代わりに食べてあげても、その子のお腹は膨れません。「冷暖自知」という言葉があります。例えばここに水の入ったコップがあるとします。その水が温かいか冷たいかどうかは温かいのか、湯気が出ていけば温かいのかと思つし、水滴がついていけば冷たいのかなと思つ。しかしそれは想像でしかありません。本当のことを知ろうと思えば、その水に直接触れてみるしかありません。つまり、

究極のところは自分自身で動き、感じるしかたなのです。冷暖自知。怖いことかもしれませんが、勇気のいることかもしれませんが、だからこそ、少しでも子ども達が安心して、勇氣をもつて歩んでいけるようにすることが大人の責務ではないでしょうか。それが「支援」ということだと思えます。子ども達が正しい判断ができるように、正しい方向に目覚めることができるように、我々大人がその範を示していくことが重要なのです。その為には、繰り返しになりませんが、手をかけるべきところと見守るべきところの見極めを正しくしないとけません。養育する大人の責任は重大です。そうして、やれるべきことを精一杯やった上で、あとは「何とかこの子がまっすぐ成長してくれましよう」と祈るしかたない。精一杯やるからこそ祈ることができる。形だけなら誰でも祈れるかもしれませんが、それがそれでは意味がありません。体裁だけ取り繕うのは偽善にしかたありません。そうではなくて、精一杯やれば最後は自然と祈らざるを得なくなるといふのが正しいと思えます。どれだけ頑張つても、

究極のところには我々の力は及ばないのだということ。我々自身がそのことを自覚できて初めて、我々是他者に対して謙虚になれるのだと思えます。畢竟、子どもの養育とは子どもが問題なのではなく、養育する我々自身が今までどう生きてきて、今どう生きていて、これからどう生きていくのか。それに尽きるのではないでしようか。

何事においてもそうですが、子どもの養育についても「これで良い」ということはありません。正解は分からなくて当然です。だからこそ手を抜けないのです。手を抜かなければ大変なのは当たり前。その労を惜しむと養育は成り立ちません。子ども達に少しでも多く「そつと差し出される手の温もり」を感じてもらえるように、日々精進してまいりたいと思えます。



親ガチャ、子ガチャ、全部ガチャ

今、主に若年層の間で「親ガチャ」という言葉が流行っているの聞きました。この言葉を初めて聞いた時には何のことかさっぱり分かりませんが、調べてみると、「生まれた家庭環境は運頼みであり、「くじ」や「抽選」のようなものだ」という意味だそうです。子どもの頃によく駄菓子屋に置いてあった（今もあります）「ガチャガチャ」という、お金を入れてハンドルを回すとカプセルが出てくる機械のことを言っているように、確かに何が出てくるかは時の運でした。景品を選ぶことはできない仕組みです。それと同じように、親ガチャとは「子は親を選べない」ということを言っているようにです。

この言葉が何を意味しているのかは、まだ深く理解できていないので論じることはできませんが、単純に思ったことは、「親も子を選べない（子ガチャ）」ののではないかと感じます。他にも、例えば部下は上司を選べませんが、

上司も部下を選べません（独裁的な組織であれば違つのかもかもしれませんが、通常はそうだと思います）。また、我々は普段の生活の中で様々なことを自分の意志で選択して生きていくように思っているかもしれませんが、そもそもその「自分」は自分の意志で生まれてきたわけではありませぬ。自分そのものが自分の意のままに存在しているわけでは無いのです。ということは、世の中のこと全てが思い通りにならないのは当たり前ではないでしようか。敢えて言つたら「全部ガチャ」です。

確かに生まれた時の環境の違いはあるかもしれませぬ。苦しみや悩みも多いでしよう。しかしそれだけで人生全てが決まってしまうわけではないと思えます。岩に根を張り成長している松の話聞いたことがありますが、どんなに過酷な環境でも、現存している「自分」をしっかりと生かしていくことを考えてみてはどうでしようか。一考察です。



ICT教育に向けて思うこと

ICT教育の必要性、重要性については以前より語られてきていきましたが、コロナ禍において一気に加速し、山口県でも子ども達が通う学校でパソコン等の貸与が始まりました。

昨年来のコロナ禍で、職員の研修や会議はリモート、特にwebで開催されることが多くなりまして、育児院でも業務で利用してはいますが、子ども達が使用できる環境はこれまで整っていませんでした。しかし、これからは子ども達もwebでの勉強方法を受け入れ、使いこなしていかなければなりません。その為、育児院でも遅ればせながら今回児童用のwifi環境を整備しました。

これだけインターネットが普及した今でも、それに関わるトラブルや被害は後を絶ちませぬ。これからの子ども達も、ネット被害についてしっかりと学ばなくてはなりません。パソコンや携帯電話等、技術の進歩で本当に便利な世の中になっていきますが、果たして我々

はそれらのツールをきちんと使いこなせているのでしようか。自分ではそれらの便利な道具を使っているつもりでも、実はその道具に使われているということが多々あるように思えます。ネット依存などはその典型でしよう。便利な道具は使いようによっては毒にも薬にもなります。便利になればなるほど、それを使う人間自身が問われてくるということを忘れてはいけません。

wifi環境は整えました。それをどう使うかは一人ひとりの問題です。それを教えていくのも大人の仕事です。たくさんの方を学ぶチャンスだと思つて、しっかりと使いこなしましょう。

